

## 国際ミツバチ研究協会 (IBRA) の活動

R. Jones

国際ミツバチ研究協会はミツバチ科学と養蜂に関わる、すぐれた研究と活動によりもたらされる情報を収集、整理し、啓蒙に務めることを目的に、1949年 Eva Crane 博士を中心に設立された NPO である。当初ロンドン市内にあった事務局は 1987 年から英国、ウェールズ地方の中心都市、カーディフにおかれ地元のカーディフ大学と連携して活動を続けている。

百カ国以上の会員をもち半世紀に及ぶ活動の結果、IBRA は世界でもっとも充実したミツバチ関連文献を収集した組織となった。これら蔵書群の正式名称は Eva Crane/IBRA 図書室である。Crane 博士は初代の所長として長年 IBRA を導いてこれ、引退された後も終身名誉会長として現在に至るまで盛んな執筆活動を続けておられる。“国際”の名が現すとおり、これら文献は英国だけでなく、各国から集められ、その閲覧利用のために世界中の人々が IBRA

に問い合わせてくる。科学研究文献は英文が主流ではあるが、その他の言語も多数ある。類を見ない幅広い書籍、学術雑誌に加え、ミツバチ研究と養蜂技術、さらに神話学からアピセラピーにいたる、ミツバチ・養蜂関連と、派生した広範な分野の 6 万編の論文が収蔵されている。

### 雑誌の発行とインターネット

IBRA はこの膨大で貴重な知識の蓄積を、多くの人に活用してもらえるようにいくつかの方策を用いている。会員を対象に 3 種の雑誌を発行している (図 1)。

- Bee World:  
全会員に配布される啓蒙・情報誌、ミツバチ科学関係の動向を伝える
- Journal of Apicultural Research:  
原著学術論文を掲載する雑誌
- Apicultural Abstract:  
関係論文抄録誌、年 5 回発行で 1 年間に発表される論文などの情報約 1400 編が分野別にまとめられる。

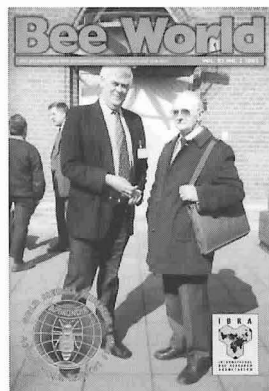
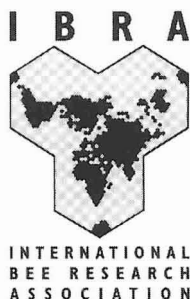
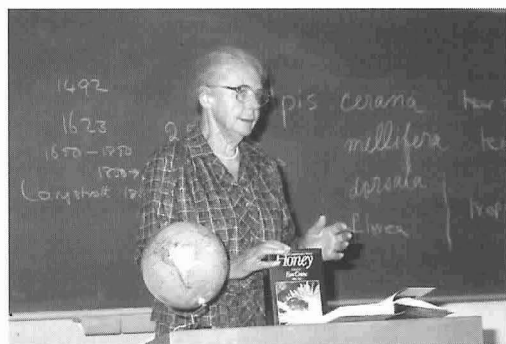


図 1 左：玉川大学の招聘を受けて 1987 年に来日し、学生に講演する Crane 博士  
中：国際ミツバチ研究協会のロゴ  
右：会誌 Bee World, 表紙の人物は事務局長 Jones 氏 (左) と新議長の van Laere 博士 (右)

IBRA も近年インターネットサイトの充実に努めており、先頃その装いを一新した(図4)。入会、雑誌購読の申し込み、活動報告、書籍販売などのページにくわえ、所蔵する貴重な資料をデジタル化して広く共有できるように作業を進めて折り、その注文窓口も今回新たにもうけている。皆様にも直接次のウェブサイトアクセスしてぜひ貴重な情報を得ていただきたい：  
www.ibra.org.uk

### ミツバチ関連国際会議の開催

IBRA は蓄積された知識の財産を広く分かち合う場として、イギリス国内向けの大会と、国際会議とをそれぞれ開催してきた。その中でもっとも良く知られたものは、一連の熱帯養蜂国際会議であろう。

長い歴史をもつ欧米の温帯地域での養蜂に比べ、科学研究や管理技術の発展が遅れた熱帯地域の養蜂振興とミツバチ科学研究の発展をめざして1976年にロンドンで第1回が開かれた後、New Dehli/India (1980), Nairobi/Kenya (1984), Cairo/Egypt (1988), Trinidad and Tobago (1992), San Jose/Costa Rica (1996) と続いた。

アジアで初めての開催となった第7回熱帯養蜂国際会議は、2000年3月にタイのチェンマイで開かれた。アジア養蜂研究協会第5回大会と共催の形で行われ、アジア各国のミツバチ研究者や養蜂振興関係者と、アジアのミツバチとその養蜂に興味を持つ世界の研究者が一堂に会して、最新の情報を交換した。次の第8回会

議は2004年9月にブラジルでの開催が決まっている。

各大会の論文集は順次出版されており、熱帯養蜂に関する重要な情報源、文献としての評価を得ている(図2)。

### 書籍出版

テーマを定めて開催されるイギリス国内むけ大会もミツバチ関連の最新情報の普及、啓蒙に貢献しており、その総集録は次の書籍シリーズとして出版されている(図3)：

\*Varroa: Fight the Mite

\*Bumble Bees for Pleasure and Profit

\*Beeswax and Propolis for Pleasure and Profit

シリーズ最新刊が次に述べる Honey & Healing (日本語版「ハチミツと代替医療」)である。これら書籍や、養蜂関連用語を各国語で比較参照できる養蜂用語辞典(図2)など、これまでにIBRA や他の出版社から出されたミツバチ関連書籍はホームページ内 book shop でオンライン購入できる。

### ハチミツと代替医療

世界には約2万5千種の蜂が生息すると考えられている<sup>1)</sup>。が、その中で人類が強い関心を持ってきた蜂は、それらが生産するものを利用できる、僅か数種に限られている。主なミツバチ種を表1に示した。

表1からも分かるようにミツバチが生産する物質は人間にとって多彩な商品価値がある。

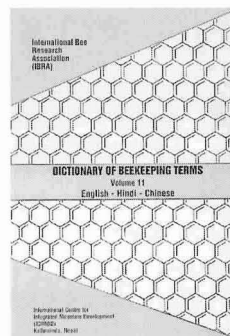
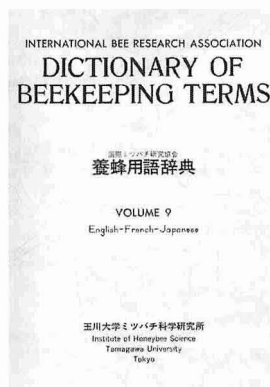
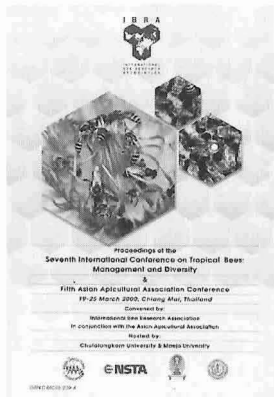


図2  
左：第7回熱帯養蜂国際会議論文集  
中：養蜂用語辞典9巻英語／仏語／日本語  
右：養蜂用語辞典11巻英語／ヒンズー語／中国語

表1 社会性昆虫の生産物とその利用

Crane から改変

主なミツバチ種	原産地	ハチミツ	蜂ろう	プロポリス	花粉	ハチ毒	ローヤルゼリー
ミツバチ							
セイヨウミツバチ	中近東, アフリカ, ヨーロッパ	XX	XX	XX	XX	XX	XX
トウヨウミツバチ	アジア	XX	XX		X	X	X
オオミツバチ	熱帯アジア	XX	XX	X	X	X	X
コミツバチ	熱帯アジア	XX	XX	X	X	X	X
ハリナシバチ (Meliponinae)	熱帯	XX	XX	X	X		
X ミツバチが生産, 収集する物質				XX 販売用に収穫, 利用されている生産物			

人類が最も早く用いた医薬品の一つとしても知られている。

現在のミツバチと比較的類似した形態のものが5千万年前にすでに存在していた。ハリナシバチ (Meliponinae) は更にその2倍も長い歴史をもっている。だから彼らと人類との関わりが先史時代からあったであろうと想像してもおかしくないだろう。ヨーロッパの洞穴で発見された紀元前6千年ころの絵にはミツバチの巣を採集しようとするハニーハンターの姿が描かれている。ハチミツは当時から人々の病気を癒し、滋養に富んだ貴重な食物と考えられていたに違いない。

ハチミツに治癒効果があったと述べる記録や、治療のための処方箋が多数残っている。単

に“使った”という記録が“効いた”という意味にとられ、それがくり返されるにつれて、いかにも有効であるかのように理解されることもあった。しかし、実際に治癒効果を持つと科学的に定義づけるのは、はるかに難しい。これまでに数多くの科学的な研究が成されているが、時間的、地理的にかけ離れ、独自に行われて、それらの報告も多数の科学雑誌に、多数の言語でバラバラになされてきたので、全ての業績を調べ上げるのは極めて困難なのである。

まず大きな課題が、民間伝承と科学研究とを峻別し、しっかりした科学的基礎をもった研究による報告を探し出すことだろう。そのためにはミツバチに関わる極めて広範囲な種類の情報を一個所に集積している図書館の存在はユニー

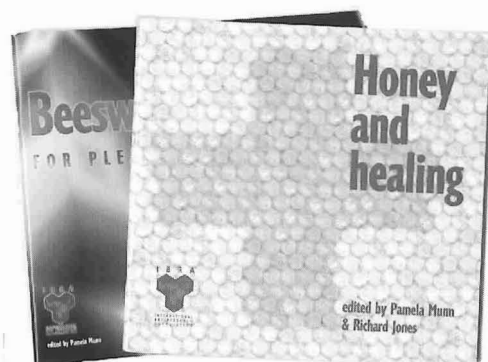


図3 テーマ別シンポジウムの総収録シリーズ



図4 一新されたIBRAのウェブページ。国際会議の情報、会員登録、文献検索、書籍注文などがオンラインで出来る。

クで際立っていると言える。国際ミツバチ研究協会はアピカルチャル アブストラクトの発行を続けてきたことにより、ミツバチとその生産物に関連するほとんど全ての報告の要旨を秩序だてて記録し、その多くの文献を収蔵している。

「ハチミツと代替医療」は事実と搜索を明白に区別し、医学から神話を取り去る第一歩となるべき本である。カーディフ大学では先進的な創傷治癒治療が進められており、そこではハチミツを外科的な創傷治療のための器材として用いる研究が行われ、他の方法では治療困難であった症状を治癒に導いた画期的な症例もみられた。ニュージーランド ワイカト大学のモラン博士はハチミツの抗菌活性について多くの研究をすすめている。以下にあげる各章の執筆者は、それぞれ厳格な条件下で行われた実験結果を報告しており、読者はその内容が科学的に証明されたものであると信頼できる：

- 1 時を超えて、ハチミツは人を癒す
  - 2 なぜハチミツは薬として効果があるのか
  - 3 ハチミツはどのように傷をいやすのか
  - 4 傷の治癒／修復に果たすハチミツの役割
  - 5 ハリナシバチハチミツと白内障の治療
  - 6 ハチミツによるやけど、外傷の処置法
- 附録 ボツリヌス症とハチミツ

今日既に多くの人々が医薬器材としてハチミツを利用し始めている。彼らはハチミツに次のようなメリットがあることを理解しているからである：

\*抗菌作用により感染を防止する

\*粘性の防護膜を作ること、体液の漏出を抑えると共に、細菌の侵入を阻止することができ、感染を防止する

\*ハチミツに含まれる酵素が創傷治癒をうながし、体組織の修復を促進する

\*膿を吸収し、傷口をきれいにする。

\*疼痛を和らげ、傷から出る悪臭をなくす。

「ハチミツと代替医療」は、人々が長い年月ミツバチと共に暮らし、いつか修得、利用していた、ハチミツのもつ大きな力に、改めて現代科学の光を当て、正しく評価し、科学的に信頼しうる情報として、それを多くの方に伝えようという目的で出版された。21世紀の養蜂が進むべき、ひとつの方向を示す書籍だと考えている。

(著者の住所は下記参照)

翻訳 榎本ひとみ)

#### 参考文献

- O'Toole, C. and A. Raw. 1991. *Bees of the World*, Blandford, London, UK.
- Mizrahi, A. and Y. Lensky. 1997. *Bee Products- Properties, Applications and Apitherapy*, Plenum Press, New York and London.

RICHARD JONES. International Bee Research Association. *Honeybee Science* (2002) 23(4): 177-180.  
Director, IBRA, 18 North Road, Cardiff, UK. Tel: +44 29 2037 2409 Fax: +44 29 2066 5522  
[www.ibra.org.uk](http://www.ibra.org.uk)